

税業務共同処理の考え方 (案)

(現状・背景)

(課題)

(取り組み)

(効果)

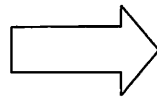
地方税の現状
・徴収率が低い
・徴収コストが高い
・課税客体の捕捉

地方税の仕組み
・課税客体が共通
(土地、家屋、所得)
・納税者(滞納者)共通
・業務が共通

社会経済情勢の変化
・人口減少、低成長
・厳しい行財政状況
・ライフスタイルの変化
・住民異動

税務執行体制の重要性
・税の公平・公正
・税源移譲でウェイト増加

税 の 公 平 ・ 公 正	税収確保
	効率化
府 民 の 信 頼	納税の利便性
	税務執行体制の強化



**税業務の
共同処理**
(課税・徴収の一体化)

税収確保
徴収率の向上
課税客体の捕捉

コスト削減
人件費削減
システム経費削減

納税者利便
申告書等窓口一元化
コンビニ納税等の促進

**税務執行体制
の強化**
大量反復業務の簡素化
職員の専門性向上
持続可能